

URL <http://aomori.lin.gr.jp>

畜産協会だより

Vol.35

発行
一般社団法人 青森県畜産協会

第15回定時総会を開催

本協会の第15回定時総会が去る6月25日に青森市の「ラ・プラス青い森」で開催され、第1号議案の平成29年度事業報告及び収支計算書類等の承認から第2号議案の平成30年度会費及び賛助会員の額並びに徴収方法、第3号議案の平成30年度事業収支予算の報告について、原案どおり承認された。



〈基本方針〉

本県の畜産は、恵まれた生産基盤と畜産物の需要に支えられ、農業産出額の約3割近くを占め、資源循環型農業の要としての役割も担いながら農業の基幹部門として淳やかな役割を果たしている。

しかし、配合飼料価格や資材価格等の高止まりにより、経営の合理化、生産コストの低減に向けた取り組みが求められており、家畜の損耗防止対策、経営及び生産技術の向上対策、飼料自給率向上対策が急務となっている。

このため、協会は、国や県の行う畜産関連施策と連携を密にし、幅広い視点から総合的な指導体制の充実強化を図りながら畜産経営の安定と更なる発展のため、次の重点施策を積極的に実施し本県畜産の振興を図る。

〈平成30年度の重点項目〉

1 経営支援対策

- (1) 畜産経営の安定と生産性向上を図るため、生産技術の支援及びインターネットによる情報の配信など総合支援
- (2) 畜産・酪農の収益力・生産基盤の強化のための畜産クラスター事業の推進
- (3) 酪農経営の労力負担の軽減のための楽酪事業等の推進
- (4) 肉用牛肥育経営安定特別（通称：牛マルキン）の推進
- (5) 堆きゅう肥の耕種農家と連携した利用促進及び自給飼料の確保推進
- (6) 県産畜産物の普及促進

2 価格安定対策

- (1) 肉用子牛生産者補給金制度及び関連事業の推進
- (2) 肉用牛経営安定対策補完事業の推進（肉用牛ヘルパーの推進等）
- (3) 養豚経営安定対策事業（通称：豚マルキン）の普及促進

3 家畜衛生対策

- (1) 家畜伝染病の発生・流行の防止のためワクチン接種の推進及び家畜防疫互助事業への加入推進
- (2) 死亡牛（48月齢以上）の円滑な処理及びBSE検査の推進
- (3) 修学資金の貸与による獣医師の安定確保や農場HACCP認証の普及定着

平成30年度 家畜衛生表彰者

上十三地区



関 善一 (せき ぜんいち)

父、政蔵氏が乳業牛であるジャージー種を昭和35年頃から飼養開始し、善一氏は昭和38年頃からホルスタイン種20頭程で酪農経営を開始した。平成15年からは肉用牛（黒毛和種）に本格的に経営参画した。この間、旧十和田湖町農協に20年以上勤め、専務理事として農協運営にも努めていたことが、県の育種改良事業への継続的な協力への基盤ともなっていた。平成26年からは後継者としてご子息の善昭氏も加わり、県外導入も利用しつつ育種改良を進めている。

現在、本県黒毛和種改良組合発祥の地である奥瀬牧野組合の組合長に、平成20年に就任、3期目を努めている。2期務めた石倉前組合長に引き続き、県の種雄牛造成に積極的に協力し、度々種雄候補牛を輩出していた。平成25年に当組合で生産された「春待白清」が平成29年度に基幹種雄牛に指定された。今後とも育種改良事業への貢献が期待される。

三八地区



宮木 富士子 (みやき ふじこ)

昭和51年から、三戸畜産農業協同組合の職員として組合の会計業務に従事するとともにワクチン接種事業に携わり接種率向上に努め、現在まで42年の長きにわたり行政と生産者への橋渡しとして、地域の畜産の振興と家畜衛生に対する知識の普及、啓蒙活動に貢献している。

また、各種事業を推進し採草事業の見直しを行うなど、組合経営の健全化にも尽力しており、1,000人を超える組合員からの信頼も厚く、平成27年からは、これまでの業務実績と豊富な経験が認められ、三戸畜産農業協同組合参事として活躍している。

さらに、三戸地方黒毛和種改良組合や平成22年に県内で唯一設立された三戸地方黒毛和牛育種組合の設立や運営を縁の下で支えるなど、地域の肉用牛生産の発展に大きく貢献している。

むつ地区



高橋 代人 (たかはし だいと)

平成6年7月から田名部畜産農業協同組合に勤務し、平成30年3月まで業務課長として地域の肉用牛振興に寄与した。特に、繁殖雌牛の導入を図り、肉用牛の改良増殖を積極的に推進し、全国和牛共進会出品にあたっては牛の手入れの細かな指導を行うなど下北地域の肉用牛振興の中心的な役割を果たしてきた。

また、自らも祖父の代からの黒毛和種繁殖経営を平成20年から引き継ぎ、現在、黒毛和種繁殖牛34頭を飼養し、繁殖経営の実践者として優良子牛の生産に努め、常に安定した経営を維持しています。

さらに、予防接種や消毒などの家畜衛生対策にも積極的に取り組み、地域の肉用牛振興と地域のリーダー的存在として大いに貢献しています。

津軽地区



工藤 広行 (くどう ひろゆき)

工藤農場は、中泊町で肉用繁殖牛を21頭飼養する当地域の中核的な農場であり、先代の利明氏が平成15年に繁殖牛4頭から経営をスタートしたのが始まりで、その後利明氏は優良雌牛を次々と導入し、中でも第7おくちとせ号（津軽）は県内1位の育種価評価結果を示すなど、関係者から注目されるようになった。

広行氏は平成19年から本格的に経営に携わるようになり、先代の下で牛飼いとしての知識の習得と技術の研鑽に努めてきた。平成20年には人工授精氏の免許を取得、翌21年には受精卵移植師の免許を取得しその後も着実に技術を磨き、良好な繁殖成績を挙げている。

また、子牛の下痢症を予防するため畜産協会の予防接種事業を活用して、下痢5種混合ワクチンの接種を行っている。このワクチンは母牛に接種し子牛に免疫を与えるものですが、工藤農場では平成20年にいち早く接種を始め、現在も継続して接種しているなど予防衛生上模範的な対策を実施している。

このように、高い繁殖技術を利用した優良子牛の生産や、ワクチンを応用した健康な子牛育成への取り組みは中泊町の畜産振興において高く評価されるものであるとともに、今後、西北地域の畜産の牽引役として大いに活躍が期待される。

生産者補てん金 交付状況

1. 肉用子牛生産者補給金交付状況

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種	乳用種	乳用交雑種
保証基準価格		341,000円	311,000円	222,000円	141,000円	216,000円
合理化目標価格		284,000円	261,000円	151,000円	98,000円	158,000円
平成29年度 第4四半期 (1月～3月)	平均売買価格	782,000円	609,200円	252,000円	262,700円	394,500円
	交付単価	—	—	—	—	—
	交付額	—	—	—	—	—

2. 肉用牛繁殖経営支援事業支援交付金交付状況

品種区分		黒毛和種	褐毛和種	その他肉専用種
発動基準		460,000円	420,000円	300,000円
保証基準価格		339,000円	309,000円	221,000円
平成29年度 第4四半期 (1月～3月)	平均売買価格	782,000円	609,200円	252,000円
	交付単価	—	—	36,000円
	交付額	—	—	612,000円

3. 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（牛マルキン事業）補填金交付状況

対象区分	肉専用種	交雑種	乳用種	備考
平成29年12月期（2月交付）	—	30,000円	21,200円	
平成30年1月期（3月交付）	1,900円	50,100円	29,000円	
平成30年2月期（4月交付）	—	72,300円	31,700円	
平成30年3月期（5月交付）	—	84,600円	28,500円	
平成30年4月期（6月交付）	—	56,800円	34,200円	（概算払い）

4. 牛マルキン補填金算定基礎（全国）【平成30年4月期】

※平成30年4月期から差額の9割での算定となりました。

区分	肉専用種	交雑種	乳用種
粗収益 (A)	1,298,350	687,985	443,218
生産コスト (B)	1,260,081	755,602	485,738
差額 (C) = (A-B)	38,269	△ 67,617	△ 56,667
暫定補填金単価 (D) = (C) × 0.9	—	60,800	45,300
補填金単価（概算払）(D) - 4,000	—	56,800	41,300

注1：補填金単価は、100円未満切り捨て。注2：平成26年度より消費税抜きで算定。

5. 養豚経営安定対策事業 補てん金交付状況

	平均粗収益	平均生産コスト	補てん金単価
平成29年度 第1～4四半期 (1月～3月)	38,945円/頭	32,678円/頭	0円/頭

地方競馬全国協会からのご案内

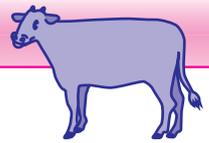
「地方競馬の馬主になりたい!」という方は、地方競馬全国協会までご連絡下さい。地方競馬の馬主登録制度についてご案内いたします。

なお、地方競馬の馬主情報については、地方競馬サイト/馬主申請Q&Aでご覧になれます。

<http://www.keiba.go.jp/>



青森県家畜市場成績（七戸）



子牛 市場成績表 【開催日 30年6月8日】 <速報値>

1. 販売価格 税込み【子牛】

品 種	性	今 回 分						前 回 分			Kg単価 増減	
		頭数	最高価格	最低価格	平均価格	平均日令	平均体重	Kg単価	頭数	平均価格		Kg単価
黒毛和種	雄											
	去	323	1,415,880	132,840	772,056	299	328	2,356	371	810,996	2,473	-117
	雌	207	1,140,480	33,480	636,177	306	297	2,146	233	681,174	2,275	-129
	【小計】	530	1,415,880	33,480	718,987	302	316	2,279	604	760,915	2,401	-122
日本短角種	主	17	1,252,800	498,960	684,593	296	315	2,170	10	737,748	2,318	-148
	雄											
	去	1	233,280	233,280	233,280	271	281	830				
	雌	1	250,560	250,560	250,560	297	318	788				
【小計】	主	2	250,560	233,280	241,920	284	300	808				

・黒毛和種の取引頭数は530頭で、前回より去勢48頭減、雌26頭減、全体で74頭減となった。
 ・黒毛和種の平均価格は718千円で、前回より去38千円安、雌44千円安、全体で41千円安となった。

2. 主な種雄牛の販売価格 税込み【子牛】

名 号	去 勢					雌					合 計						
	頭数	平均価格	体重	単価	日令	頭数	平均価格	体重	単価	日令	頭数	平均価格	単価	日令	割合(%)		
第1花国	66	855,016	337	2,538	304	33	615,305	297	2,073	308	99	775,113	2,396	305	18.7		
美津照重	31	818,814	325	2,517	299	21	686,314	306	2,242	313	52	765,305	2,410	305	9.8		
勝早桜5	15	933,840	347	2,692	298	8	785,160	317	2,478	296	23	882,125	2,622	298	4.3		
平安平	30	735,084	339	2,167	296	35	579,158	289	2,006	302	65	651,124	2,087	299	12.3		
幸紀雄	9	899,520	325	2,768	306	6	725,220	302	2,401	299	15	829,800	2,628	303	2.8		
総合計	323	772,056	328	2,356	299	207	636,177	297	2,146	306	※その他省略		530	718,987	2,279	302	100.0

・最も取引頭数の多かった種雄牛は「第一花国」で18.7%、次いで「平安平」12.3%となった。
 ・第一花国の平均価格は775千円で、前回に比べ99千円安となった。単価は2,396円で前回より383円高となった。

次回開催日は7月13日(金)です。

楽酪事業及び楽酪G O事業（労働負担軽減事業） 説明会開催

4月24日に、全国事業説明会（4月19日開催）を受けて今後の対応について、関係者を対象とした説明会を青森県畜産課との共催で開催した。

楽酪事業は、前年度に続いての実施、楽酪G O事業は本年度新規事業として、それぞれ30億円、50億円の予算措置がなされるとともに、特筆すべき内容として、楽酪G O事業は機械と一体的に整備する畜舎の補修改修も可能となった。

本協会は、基金管理団体（事業実施主体）である公益社団法人中央畜産会から事務委託を受け、青森県の窓口団体として事業実施に係る関係書類のとりまとめや各種文書の伝達などを行う。同様に畜産クラスター事業についても青森県の窓口団体として実施している。

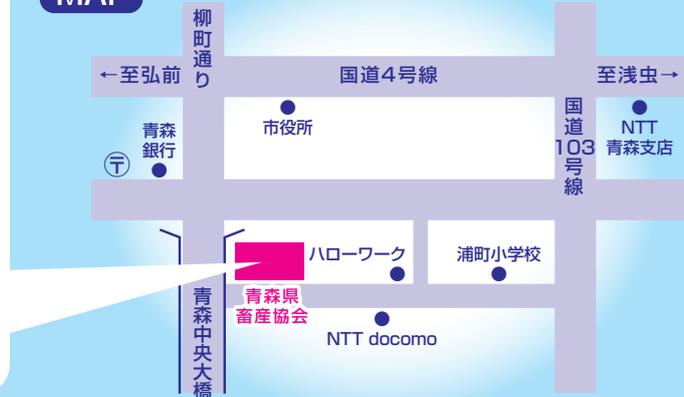
説明会では、事業の仕組みと要望書や申請書の作成など具体的な事務手続きについて、県畜産課職員と本協会職員らが説明を行った。



ビルの上にいる牛が目印です。



MAP



一般社団法人 青森県畜産協会

〒030-0822 青森県青森市中央二丁目1番15号(畜連ビル)

総務課 TEL(017)723-2523(代)
 家畜衛生課 TEL(017)722-4331

経営支援課 TEL(017)723-2775
 TEL(017)718-3809

FAX (017)731-1196

URL <http://aomori.lin.gr.jp> E-mail info@aomori.lin.gr.jp